

富者の遺言 目次

Contents

第1章 始まり

本当にそれでいいのですか？

007

第2章 選ぶ

お金を持った瞬間、人は選ばなければいけない。
それをどう使うか、いつ使うか

031

第3章 扱う

世の中のファイナンシャルプランナーに
お金持ちはほとんどいない

037

第4章 持つ

お金は人を映す鏡なんだよ

047

第5章 信用

結局のところ、人を信じることでしかお金は生まれない

053

第6章 リスク

お金持ちが本当に恐れるリスクは
お金が増えないリスクなんだよ

067

第7章 起業

この時の僕は、ようやくチャンスが
巡ってきたという気持ちだった

079

第8章 借りる

物事は両面から見ることが大切だ。返すということは
もらうという存在があるということをお忘れてはいけない

093

第9章 所有

しかし、ここがお金持ちと貧乏人と分ける分水嶺だ

103

第10章 計画

自己資金はこれ以上出さないことを約束した

111

第11章 商売

必要などきど、欲しいどきに人はお金を使う

125

第12章 価格

価格の決定力がブランドの力を決める

145

第13章 賭ける

自己資金を元に一店舗一店舗着実に増やしていくか、
それとも銀行から借り入れをして一気に大きくするか

153

第14章 失う

一度鹵車が狂い出すと、そこからはあっという間でした

167

第15章 転落

一過性のブームの商品にここまでお金を投入すること自体、
ナンセンスだったのか

175

第16章 器

これだけは本当に不思議な話だが、お金はその器を持っている人の元を集まる
んだ。一億円の器の人には一億円が、一千万円の器の人には一千万円が集まる

187

第17章 遺言

私の遺言だと思って聞いて欲しい

199

あとがき

217